

◆外部評価結果に対する対応について

事業名	事業概要	方向性	評価委員の意見	対応策
<p>サバヌシ総会事業</p> <p>【市民まちづくり課】</p>	<p>「市民主役のまちづくり」の事業や成果を市民がストレートに実感でき、市民自身でも評価するような事業として、市民主役事業に関する経過報告、テーマ別ワークショップなど、市民主役のまちづくりに関する総合的啓発・交流イベントを実施する。</p>	<p>【内部評価】 事務改善</p> <p>【外部評価】 事務改善</p>	<p>① 目標値はサバヌシ総会に直接関係する数値に限定すること。また、1.2.3部等に分けて集計する場合は、内訳が分かるような目標値、実績値とすること。</p> <p>② 提案型市民主役事業全体として、提案から実施に至る流れを通して市の目標を受託者と共有してもらいたい。</p>	<p>① 目標値は、サバヌシ総会に直接関係する数値に限定するとともに、部ごとの集計を行います。</p> <p>② 提案型市民主役事業の受託者側には、あらかじめ活動指標および成果指標の目標値を共有します。</p>

事業名	事業概要	方向性	評価委員の意見	対応策
ITに親しむ講座事業 【情報統計課】	主に初心者を対象として、タブレット端末 (iPad) の操作方法や、便利なお役立ちアプリの紹介などを内容とした講座を開催し、インターネットの仕組みや安全性・利便性について理解を深め、IOT化が進む社会に対応できるよう、市民のスキルアップを図る。	【内部評価】 維持 【外部評価】 事務改善 【再評価】 <u>事務改善</u>	① 予算の持ち方は適切か。説明可能な予算の持ち方をお願いしたい。 ② 地区の掲示板にポスターを掲示するなど、ターゲットとなる高齢者に合わせた広報を行ってはどうか。 ③ 災害用アプリなど、高齢者にとって必要性のあるアプリを紹介してもらいたい。 ④ 目標に含まれる行事の内容と目標の水準を、事業規模や対象等に合わせて見直してほしい。	① 本事業を開始した際には市直営で実施していたため、タブレット端末の使用料を本事業費として計上していました。その後提案型市民主役事業化される際に、市が保有するタブレット端末を貸与するという事で事業化されており、委託料とタブレット端末使用料を予算としておりましたが、タブレット端末は本事業以外でも使用することもあるため、事業費は委託費のみとします。 ② 従来から各地区公民館でのポスター掲示や「広報さばえ」への記事掲載などで周知を図ってきましたが、本年新聞折り込みチラシを行ったところ非常に効果的でした。 今後も、ポスター掲示や広報への掲載や新聞折り込みなどに加え、多様な手段を検討し、講座の開催を周知することで受講者数の増加につなげてまいります。 ③ 講座では生活に役立つ便利なアプリを紹介していますが、近年台風やゲリラ豪雨などの風水害に備える気象・防災情報を発信するアプリも多く登場していますので、それらを含めた生活に役立つアプリを講座内で紹介し、受講者の方々に興味を持ってもらい、タブレット端末の操作だけでなくアプリの利用もできるようにしたいと思います。 ④ 本事業は、デジタルデバイド解消を目的として、操作の容易なタブレットを使用した講座の開催で、主な対象者はIT技術に知識の少ない初心者であることから、1回あたりの受講者は少人数で開催しています。 今後は、事業の内容および目標水準について、他の事業と区別することで実際の事業内容に合わせて見直しを行います。

事業名	事業概要	方向性	評価委員の意見	対 応 策
<p>学生との連携による うるしの里(河和田アート キャンプ)活性化事業</p> <p>【商工政策課】</p>	<p>福井豪雨をきっかけに、 京都や福井の大学生達が、 夏休みを利用して地域に 滞在(キャンプ)しながら 「うるしの里」の魅力に直 接触れ、学生の視線や感性 で伝統工芸や自然、環境な どの地域資源を活かし、新 しい風を取り入れたまち づくりを地域と協働で取 り組む。</p>	<p>【内部評価】 事務改善</p> <p>【外部評価】 事務改善</p>	<p>① 事業存続のために新たな財源を 確保し、地域おこし協力隊が継続さ れるよう努めてもらいたい。</p> <p>② 内部評価にもあるように、コスト 削減を実行してもらいたい。</p> <p>③ 地域おこし協力隊の交代を機と して、単に既存路線を継承するだけ でなく、新しいことを積極的に取り 入れ、事業のマンネリ化の解消につ なげてもらいたい。</p>	<p>① ・平成 30 年度は財源の一部として福井県による「県外 若者へのふくい体験プログラム提供事業補助金 150 千円」の交付を受けました。平成 31 年度も同補助金 の申請を行い財源に充当します。この他にも国、県、 各種財団の交付金・補助金で該当するものがあれば申 請を行う予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税型クラウドファンディングを利用し、ア ートキャンプ卒業生に寄付してもらうことで、財源確 保に努めます。 ・平成 31 年度より活動拠点である古民家を利用した民 泊を行い自主財源の確保に努めます。 <p>② ・交通手段として利用しているレンタカーを一括借り上 げすることで費用を押さえた契約をするなど、コスト 削減に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都における学生の活動拠点「De まち」の会場使用 料について、年間契約するなどして費用の圧縮を図り ます。 <p>③ 新地域おこし協力隊の新たな視点でアートキャンプ 事業を見直し、地域住民の意見を取り入れた事業内容と します。そのために、実行委員会委員の見直し、プロジ ェクト方式で行っている現行のやり方もゼロベースで 再考します。</p>

事業名	事業概要	方向性	評価委員の意見	対 応 策
<p>ふるさと鯖江検定事業</p> <p>【文化課】</p>	<p>「ふるさとさばえ」を広く知ってもらうため、鯖江の歴史や文化をテーマに検定を実施する。合格者には、本市の特色を活かした技術で制作した特製の認定証を贈呈する。</p> <p>大人の検定にあわせて、子どもたちからふるさとの歴史に親しめるようキッズ検定を実施する。</p>	<p>【内部評価】 事務改善</p> <p>【外部評価】 事務改善</p>	<p>① 産業や観光へ出題テーマを広げるにあたっては、担当する部署も所管である文化課と同様の当事者意識と役割分担をもって、問題作成に関わってもらいたい。</p> <p>② 出題テーマを広げることで受験者の増加が予想されるので、認定書の単価を下げるなど、できるだけ予算を増やさないように努めてもらいたい。</p> <p>③ 問題の難易度が高く、合格率も低い印象を受けた。合格率が高ければ良いというわけではないが、受験者が検定を受けて良かったと思えるように、級やグレードを設けることなどを検討してもらいたい。</p> <p>④ キッズ検定に関して、常日頃の学習や施設の見学を通じて吸収した知識が検定の得点や認定につながるような全体的なプログラムがあると良い。</p> <p>⑤ インターネット受験を行うことで、受験者の増加と経費の削減につながることを考えられるので、積極的に活用してもらいたい。</p>	<p>① 産業・観光分野をテーマとする場合には、各分野の最新情報や参考資料の提供など、担当者間の連携を図り、受験者がより興味の持てる問題作成を目指します。</p> <p>② 平成 30 年度から、以前より廉価な認定証を導入します。</p> <p>③ 級やグレードを設けるためには、相応の問題数を増やすことになり現実的には困難ですが、全体の問題レベルを若干低くすることで受験者の達成感を得られるよう検討します。</p> <p>④ 体験学習と連動させることについては、開催時期・時間配分・参加人数の確保と管理・移動時の安全確保等が必要となるため、実施については十分な検討が必要です。</p> <p>⑤ インターネット受験は、若い世代や県外の受験者を獲得する手法としては良いが、ネット環境にない世代を排除することにもなるため、その導入については十分な検討が必要です。</p>